ISSN 1344-5561
京都府立大学図書館報
なからぎ
２２９号
２０２０年４月

「近代型能力」と「ポスト近代型能力」の挟間で

附属図書館長　小　林　啓　治

1990年代以降の日本社会では、少なくとも明治以降の、それこそ血のにじむような努力と格闘の末に築かれた生存権の損壊が進んでいる。すべての個人の生存権を保障するといった憲法の目標は暗黙のうちに空文化され、わかりやすく言えば、社会が壊れるといった現象が進行しつつある。「生きづらさ」という言葉は、そのことを感覚的に表現したものであろう。

さて、そうした社会の変容の最中にあって、大学や大学図書館にはいかなる課題や役割があるのだろうか。そんな大きな問題を考えるための小さな手がかりを、私が読んだ著作から少しだけ列挙しながら提示してみよう。

「個性尊重」が人と人とを分断する、と述べる山口裕之『人をつなぐ対話の技術』（2016年）は、自分と外部との関係性から注意をそらさせ、自分の内面だけに集中させる学校教育のあり方を批判し、「民主主義とは対話である」と主張する。また、ごく最近刊行された西研『哲学は対話する』（2019）は、「結論を導くことを目的としない」と宣言する哲学カフェのことを紹介しつつ、もし対話が各自の意見の受け取りだけに終始して、「ともに探求できる問い」を設定したり、「だれでもが深く納得出来る答え」を求めることをしないならば、満足を得られないのではないかと問うている。これらに共通するのは、対話の重要性である。少なくとも民主主義社会を維持するためには、対話を成立させるための共通の知的基盤が必要となる。大学図書館は言うまでもなく図書館の役割はここにある。

国家や社会がどんな能力を求めているかに着目した、本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』（2005年）も示唆的である。本田は、標準的で定型的な近代型能力（いわゆる基礎学力）よりも、創造性、能動性、個性など内面的な性格の強いポスト近代型能力が、一面的に重視される現状を批判的に分析している。そうした社会では、人間の内面への介入や人格全体への動員が歯止めなく強化される恐れがあり、学校教育が意欲や創造性などに介入しようとすること自体が、是認されるかどうか問う必要があるとする。結論として本書は、容赦なく捉えどころのないポスト近代型能力の要請に対抗するために、有効な「鎧」として専門性を個々人が身につけることが重要だと主張している。15年前の著作だが、入試制度が大きく変動しつつある今だからこそ、振り返ってみるべき問題提起ではなかろうか。領域的にも内容的にも固定された専門分野を墨守するのではなく、本田の言うポスト近代型能力を踏まえながら、専門分野のあり方を問い直していくことが必要なのだろう。

こうした二つの方向性から、大学図書館のあり方を見直してみたいものである。

おいの誕生に思う

公共政策学部公共政策学科　三　宅　裕　樹

先日、妹に男の子が生まれた。名前を環生（たまき）という。「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」が喧伝される今日に相応しい命名かと思いきや、妹夫婦にそのつもりはないらしい。自然と人が環（わ）となって集う、愛される存在に。周りを第一に考える優しさしか取り柄のない彼女たちらしい思い入れである。

ひと月たって、ようやく面会が許された。幼さという最強の武器をフル活用する彼。その周りには確かに、幸せの表情に溢れる大人たちが集まっていた。母親の顔となって甲斐甲斐しく世話する妹。初孫の小さな仕草ひとつひとつに目を細める両親。初めてみる彼らの姿に新鮮さを覚えつつ、一つの新たな生命がもつ力の大きさを垣間見た。

子守りの順が私にまわってきた。まだ首の座らない彼の取り扱いに悪戦苦闘しながらも、おのずと表情は緩む。普段、「厳格」「スパルタ」「鬼」「悪魔」の名をほしいままにする私だが、およそ学生さんには見せられない姿であったろう。彼の全身から発せられる温もりは、抱きかかえた腕を伝って、伯父となった実感を確かに呼び起こさせてくれた。

あどけない寝顔を眺めながら、一つの問いが頭をよぎった。彼が大人となる頃、この世の中はどのように変わっているのだろうか。彼がその小さな体に目一杯秘めた可能性を思い切り発揮し、自分、そして周りの幸せを叶える。そんな彼の将来を、未来のわが国、そして世界は、果たしてどれくらい輝かせることができるのだろうか。

職業柄、どうしても経済学の先達にその答えを求めてしまう。ジャン・ティロールの『良き社会のための経済学』（日本経済新聞出版社・2018年）は、その格好の書であろう。宇沢弘文（『社会的共通資本』（岩波新書・2000年）など）、神野直彦（『人間回復の経済学』（岩波新書・2002年）など）といったリベラル派経済学の書籍も良いかもしれない。

だが、私が手に取ったのは、森嶋通夫『なぜ日本は行き詰ったか』（岩波書店・2004年）であった。「悲愴」と名づけられるシンフォニーの書。帯にそうあるように、わが国の将来をかなり厳しく、悲観的に描いた書籍である。未来ある子供の誕生を前にして読むには、タイトルからして最も相応しからざる本ともいえよう。しかし、学部学生の頃に読んだきりとなっていた本書のことが、十余年の歳月を経て、なぜか私の中で真っ先に浮かんだ。

森嶋通夫（1923 ～ 2004）は、生前にはわが国初のノーベル経済学賞受賞の候補と目されるなど、世界的な知名度を誇る数理経済学者である。その彼が、経済・社会の超長期理論を打ち立てるべく人生後半に注力したのが、他の社会諸科学との学際研究であった。その中で『なぜ日本は行き詰ったか』は、明治期以降を主たる対象とした前著『なぜ日本は「成功」したか？』（TBS ブリタニカ・1984年）を引き継いで、歴史的な視点からバブル崩壊以降のわが国の現状分析を行っている。そしてその延長線上に、2050年 ── 環生はちょうど30歳 ── を視野に入れた将来を論じている。

数十年をゆうに超える経済・社会の変化を捉えようと、森嶋は歴史学や宗教社会学、教育社会学といった様々な社会科学の知見を援用して、考察を展開する。得意とする純粋な経済学的分析にとどまらないのは、超長期的な経済のあり方は社会的要因によって根本的な影響を受けると考えるからである。そして、マルクスやウェーバーの方法論に倣い、また自らの師であった高田保馬の議論を踏襲して、社会の下部構造としての人々の量的・質的変化が、経済をはじめとする社会の有り様、上部構造を規定するという人口史観を打ち立てる。

わが国の資本主義社会の礎となった日本人の質、エートスは儒教である。しかしそれは、オリジナルである中国のものとは異なり、早くからナショナリズムと結びついて忠の内容を大きく変質させた、独特のイデオロギーであった。この日本型儒教精神は、戦前の学校教育を通して徹底的に広められ、国家が経済運営に大きな役割を果たす「上からの資本主義」の実現に多大なる貢献を果たした。明治から昭和初期にかけての経済発展、そして戦後の高度経済成長が、これにあたる。

しかし、近代的資本主義社会に向けたさらなる発展には、個々の経済主体が公平な条件の下で自由に活動する競争的資本主義、「下からの資本主義」への転換が必要となる。そのためには、相応しい新たなエートスが人々に備わらなくてはならない。ところが、わが国は日本型儒教精神からの転換に失敗した。敗戦後の教育改革によって導入されたのが、儒教とは全く異なる、しかも本来の内容から大きく歪められた欧米型の自由主義・個人主義だったからである。それゆえ、競争的資本主義に不可欠な世俗的労働倫理を、今日の多くの日本人はエートスとして欠くこととなった。

適切な倫理・規律をもたず、単に物質主義・快楽主義的となった日本人の質は、教育改革の難しさや世代交代に要する時間を考えると、今後もそう変わらないだろう。とすれば、「下からの資本主義」への移行はおろか、「上からの資本主義」の再興すら見通し難く、わが国の没落は避けがたい。「生活水準は相当に高いが、活動力がなく、国際的に重要でない国。これが私の二一世紀半ばにおける日本のイメージである。」本書はこう締め括られる。

手厳しくも考えさせられる議論である。確かに、ウェーバー流の唯心論的な社会認識の妥当性、エートスの類型化の適切性、日本型儒教精神の盛衰と社会情勢の変化の結びつきを検討する中で捨象された歴史的事実の存在など、様々な批判はあろう。リーマン・ショック後の世界的な長期経済低迷、中国の台頭、各国での反エリート主義や自国中心主義の興隆といった、近年顕著な情勢変化に対する理解、それらがもたらす影響も、2004年に上梓された本書では（当然ながら）扱われていない、しかし重要な論点である。

とはいえ、時代の変化を捉えるべく、森嶋は人口史観という独自の史観を構築し、時間的・空間的に壮大なスケールで議論を展開する。そこでは、社会諸科学の豊富な知見が縦横に組み合わせられ、知的アートとしての美しさが論理的分析と見事に調和している。しかも、冷徹なまでに科学的・客観的な論理展開の背後には、英国に長く在職していたにも関わらず、あるいはそれ故の、日本に対するあたたかい思い入れ、深い愛情が感じられる。

暗い日本の将来という森嶋の予見には、感情的な反発の声もあろう。今日の主流派経済学は無視を決め込んでいる。しかしそうではなく、森嶋の分析と真摯に向き合い、彼自らが東アジア共同体構想を提案したように、政治的イノベーションを知的エリートとして打ち出せるかが、我々には問われているように思われる。環生のためにも。

附属図書館との関わり

生命環境学部食保健学科　佐　野　さつき

京都府立大学に入学以降、附属図書館にはお世話になっています。附属図書館では数多く、且つ幅広い専門資料や書物を閲覧できるため、実験レポートの作成や試験勉強の際はいつも図書館に通っています。京都府立大学の授業で課されるレポート課題や期末試験では専門的な知識が要求されるため、授業用の教科書や参考書では補えない部分も多々あります。そのような時は、附属図書館の書物を閲覧すると解決できます。

また、附属図書館には研究個室やグループ研究室があり、府大生は簡単に利用することができます。そのため、一人で集中してレポート課題や勉強に取り組みたい時は研究個室を、友達と相談しながら取り組みたい時はグループ研究室を利用しています。残念ながら京都府立大学は自習環境が整っているとは言い難いので、これらの研究室は熱心に勉学に励みたい学生にとって心強い味方です。レポート課題や勉強以外にも、これらの研究室は活用できます。

例えば、研究室を利用する際はパソコン・スクリーン・プロジェクターなどを貸してもらうことができるため、パワーポイントを使用した発表練習や部活動等の会議も行えます。一度も研究室を利用したことがない人は、ぜひ利用してみて欲しいです。

京都府立大学の附属図書館は先程も述べた通り、本当に数多くの専門資料や書物を閲覧できます。それらを使用して勉強する環境も附属図書館にはあります。社会人になると時間に余裕がなくなると、よく聞きます。そのため大学生の今、少しでも時間に余裕があるこの時に、幅広い知識と教養を身に付けるべきだと私は思っています。

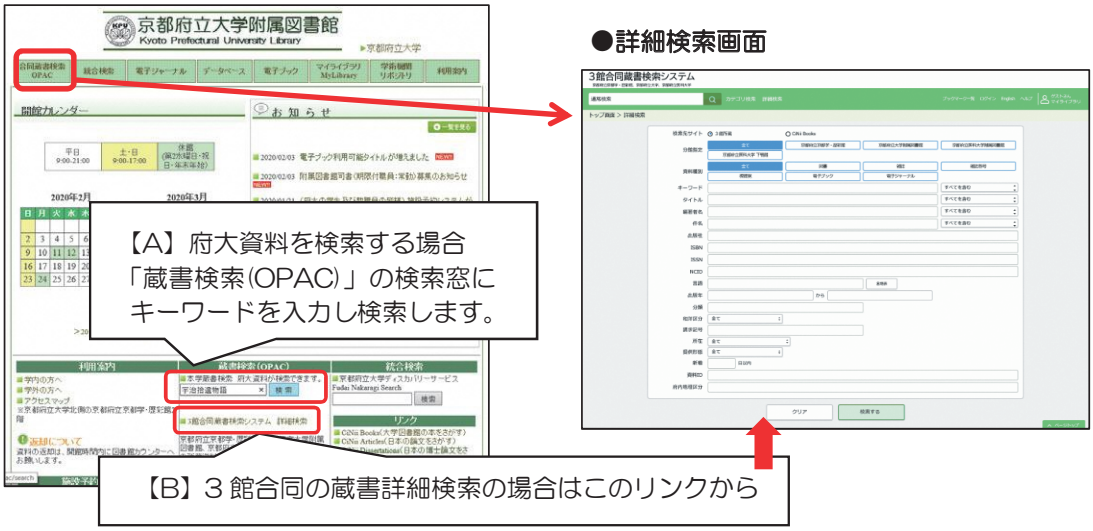
自分が専攻している分野に関する知識も、専攻していないけど興味・関心のある分野に関する知識も、この附属図書館を積極的に利用すればきっと身に付くはずです。大学生活をより豊かなものにするために、新たな自分を発見するために、社会に出た時に“学生時代に沢山学んできて良かった”と思えるために、今後も私は附属図書館を利用します。

新しい OPAC の使い方

図書系システム更新に伴い、2020 年 1 月より蔵書検索（OPAC）が生まれ変わりました。府大図書館だけでなく、京都府立医科大学附属図書館、京都府立京都学・歴彩館の蔵書も合同で検索できる「3 館合同蔵書検索システム」です。

便利な新機能について、利用方法を紹介しますので是非ご活用ください。

●蔵書検索のアクセス方法（府大図書館ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞより） ※学外からでもアクセスできます。



●【A】府大資料検索の一覧画面　（④は【A】【B】共通です）

① CiNii Books、CiNii Articles、国立国会図書館の資料が横断検索できます。

② K-Libnet やカーリルでも同じ条件で横断検索ができ、公共図書館の蔵書が検索できます。K-Libnet にあれば相互協力制度により無料で取り寄せることができます。（府大の学生・教職員の方のみ対象）

③ 検索結果が多い時は項目にチェックを入れて 絞り込む ボタンを押すと、資料種別や著者、出版情報、言語、所在、貸出区分等で絞り込みができます。

④ 資料によって表示される Google プレビュー ボタンを押すと、Google Books にアクセスできます。そこで本文の一部や全文を閲覧することができます。

●【B】３館所蔵検索の一覧画面　（⑤⑦⑧は【A】【B】共通です）

⑤ 最初の並び順は、お薦め順で表示されます。出版年(昇順・降順)、著者順、書名順、貸出回数順、関連度順等、プルダウンリストから変更できます。

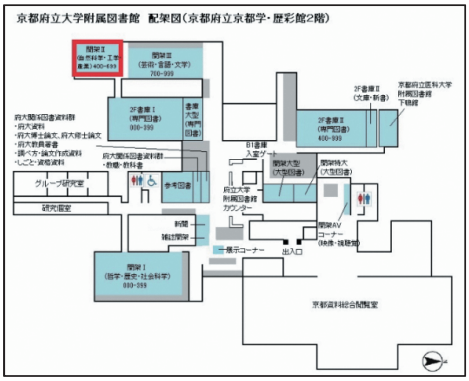
⑥ 検索結果が多い時は項目にチェックを入れて 絞り込む ボタンを押すと、所蔵館や資料種別、著者、出版情報、言語、所在、貸出区分等で絞り込みができます。

⑦ 状況が「貸出中」の資料には 予約 ボタンが表示され、予約することができます。その他、所蔵表示 とあれば雑誌の所蔵巻号や所在が確認でき、電子資料を表示 とあれば電子ブックの本文を読むことができます。（電子ブックの本文閲覧は学内 LAN 限定）

⑧「ブックマーク」機能に登録・編集することができます。マイライブラリにログインすると永続的に保存ができ、登録時にメモ欄に入力すればレポート課題や卒論研究等の際、参考資料の覚え書きとして役立ちます。ブックマーク一覧画面で確認できます。

●資料の詳細画面

●フロアマップ



⑨ Google Books で詳細を見る を押すと、Google Books にアクセスでき、図書購入のサイトでレビュー（書評）等が読めます。

⑩「所在」のリンクを押すと書架の場所がマップで表示されます。

⑪QR コードを読み込めば、スマートフォン等で表示することができます。

●資料の詳細画面

⑫ 電子資料を表示 を押すと購入している電子ブックの閲覧ができます。

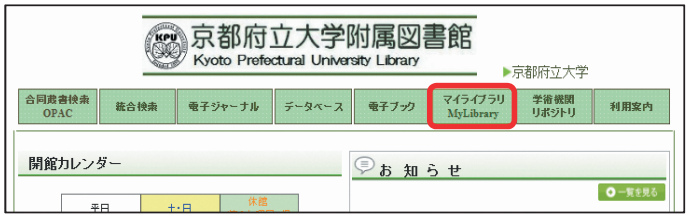
⑬ 文献管理 で RefWorks に取り込んだり、RIS 形式で出力し管理できます。
※但し、RefWorks は府大図書館では契約していませんので RIS 形式ファイルも含め、個人利用になります。

●電子ブックの画面（例．EBSCOhost eBook Collection より）

●本文の画面

⑭ PDF 全文 を押すと本文全文を読むことができます。但し、府大の学生・教職員の方のみが利用でき、学内 LAN もしくは学外の場合は「学術認証フェデレーション（学認）」を経てアクセスしてください。（原則、同時アクセス数は 1 です。）

●マイライブラリ（府大図書館ホームページより）



マイライブラリは、借用中の資料や履歴の確認ができ、メールアドレスの登録・変更もできます。府大の学生・教職員の方は、資料の予約や他大学図書館へ複写物や資料の取り寄せ依頼ができます。

⑭OPAC 画面でブックマーク登録していた資料をマイブラリにログインして、確認することができます。

<ログイン名>
学生は学生証番号。
教職員は利用カードの番号。
学生証を再発行した方は、図書館再発行番号。
<パスワード>
図書館で申請したもの。
※申請はカウンターで手続きしてください。

図書館からのお知らせ

◆図書館オリエンテーションを開催します！

新入生の皆様を対象に、
図書館の各サービスや館内設備の
利用方法を説明します。

○日時（予定）

4月6日（月）　14：30～15：00
　　15：20～15：50
　　16：10～16：40

○集合場所（予定）

京都学・歴彩館２階 附属図書館「グループ研究室１」にお集まりください。

※各回ともそれぞれ15名程度
※全ての回で同じ内容です。
※開催日時等を変更する場合がありますので、ご注意ください。

学生の皆さんが利用できる様々なサービスを紹介し、図書館内の各コーナーや
少人数で学習・研究できるグループ研究室等を見てまわります。
在校生の皆様の参加も大歓迎です！
ご参加をお待ちしています。

カレンダー

開館時間

平日	土日	休館
9:00～21:00	9:00～17:00	第２水曜日 祝日

※時間帯により行っていないサービスがあります。
　また、臨時休館を行う場合もあります。
　詳しくは、図書館ホームページでご確認ください。

2020年４月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

★4/9（木）春休み長期貸出返却日

2020年５月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2020年６月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

なからぎ 京都府立大学図書館報　229 号 2020 年 4 月発行　編集発行人：小林啓治
発行所：京都府立大学附属図書館　〒606－8522 京都市左京区下鴨半木町　TEL：075（703）5128～5131
FAX 075（703）5192　ホームページ https://www2.kpu.ac.jp/toshokan/toshokan.html